

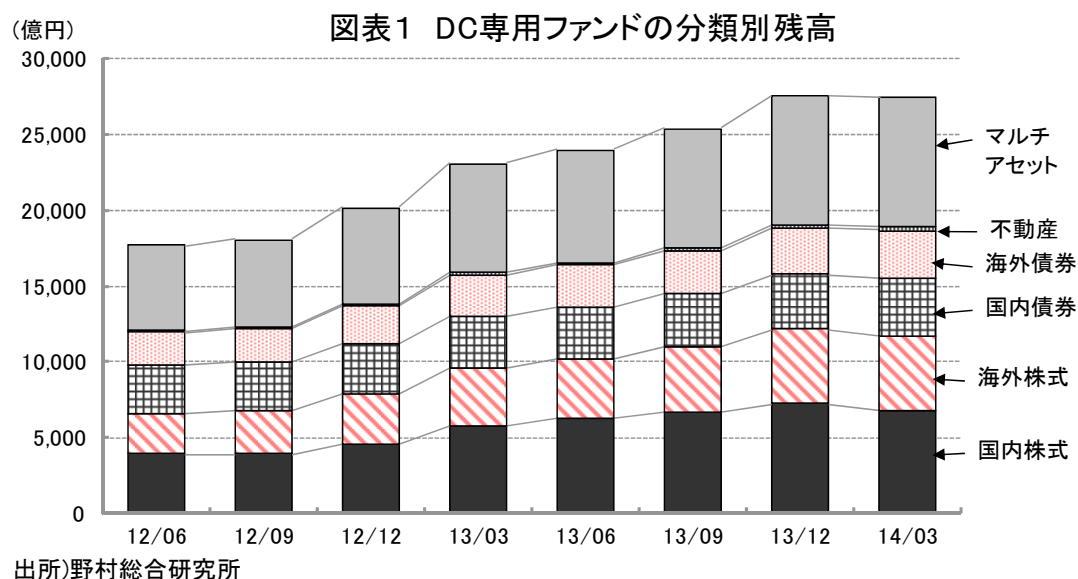
### 確定拠出年金専用ファンドの動向(2014年3月)

2013年度第4四半期の確定拠出年金専用ファンドの残高は前の四半期に比べ、135億円減少したものの、およそ2兆7500億円の水準を維持しています。収益率は国内債券型、海外債券型を除く全ての分類でマイナスとなり、特に国内株式型が不調でした。資金流入を見ると確定拠出年金専用ファンドは全ての分類において資金が純流入となりました。特に国内債券やマルチアセット型への流入額は大きく、加入者全体として低リスク商品への関心が高まっているように見うけられます。

#### 確定拠出年金専用ファンドの残高

べ135億円減少し、2兆7418億円になりました。

2013年度第4四半期(1月～3月)の確定拠出年金(以下、DC)専用投信<sup>1</sup>の残高は前四半期に比



<sup>1</sup> DCにおける投信残高の凡そ9割は、DCだけのために特別に設定されたDC専用ファンドといわれています。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

これまでの最高額を更新した前四半期からやや減少しましたが、依然として高い水準を維持しています。(図表1)。ファンド分類別にみると国内株式型で残高が減少していますが、その他全ての分類の残高が増加しています(図表2)。増加額が多いのは、国内債券型、海外債券型、マルチアセット型で、それぞれ141億円、72億円、55億円増加しています。

分類別残高構成をみてみると、マルチアセット型の割合が最も高く、全体の31.2%を占めています。2番目に残高の多い国内株式型は全体の24.8%ですので、上位2タイプだけで全体の55%を占めていることとなります。

次に、株式型ファンドと債券型ファンドという切り口で残高をみてみましょう。株式型(国内株式型と海外株式型)と債券型(国内債券型と海外債券型)の残高割合はそれぞれ42.8%、25.2%とな

り、前の四半期に比べて、それぞれ-1.3%、+0.9%変化しています。

また、国内資産(国内株式型と国内債券型)を中心に運用するファンドと海外資産(海外株式型と海外債券型)を中心に運用するファンドに分けてみると、国内資産を中心に運用するファンドの残高割合は、38.5%であり、前四半期から0.9%減っています。逆に海外資産を中心に運用するファンドは前四半期から0.5%増加し29.4%になっています。

さらに、株式ファンド(国内株式型と海外株式型)と債券ファンド(国内債券型と海外債券型)を対象にアクティブ型とパッシブ型に分けてみると、パッシブファンドの残高割合は、73.4%となっています。パッシブファンドの割合は2012年度第1四半期(2008年6月末)の74.5%から前四半期の72.7%まで一貫して低下してきましたが、本四半期で増加に転じました。

図表2 DC専用ファンドの分類別残高(億円)

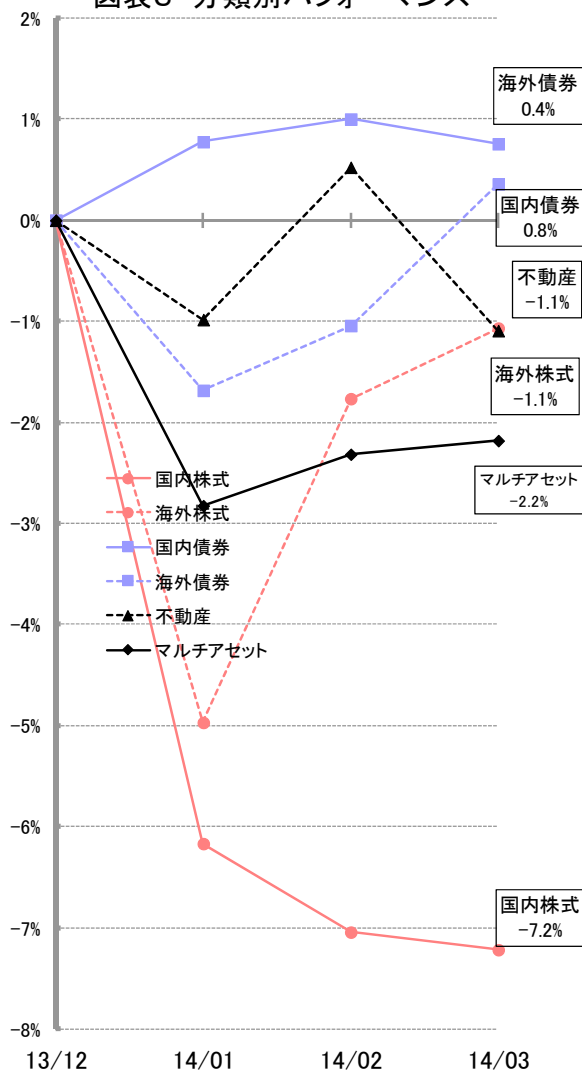
	12/06	12/09	12/12	13/03	13/06	13/09	13/12	14/03
国内株式	4,005	3,919	4,600	5,732	6,270	6,709	7,231	6,788
アクティブ運用	1,546	1,512	1,778	2,199	2,428	2,613	2,863	2,666
パッシブ運用	2,459	2,407	2,822	3,533	3,842	4,097	4,367	4,122
海外株式	2,594	2,849	3,259	3,831	3,936	4,246	4,913	4,947
アクティブ運用	668	738	835	980	1,010	1,092	1,262	1,256
パッシブ運用	1,926	2,111	2,424	2,850	2,925	3,154	3,651	3,691
国内債券	3,212	3,253	3,337	3,432	3,411	3,520	3,635	3,776
アクティブ運用	517	534	544	557	548	565	580	600
パッシブ運用	2,694	2,719	2,793	2,874	2,863	2,954	3,055	3,176
海外債券	2,155	2,157	2,490	2,664	2,743	2,810	3,053	3,125
アクティブ運用	321	331	372	391	397	406	429	438
パッシブ運用	1,834	1,825	2,118	2,273	2,346	2,404	2,624	2,687
不動産	96	108	131	229	187	215	225	229
マルチアセット	5,620	5,745	6,345	7,181	7,428	7,867	8,496	8,551
バランス型	5,494	5,615	6,201	7,013	7,250	7,661	8,239	8,242
ターゲットイヤー型	84	88	95	108	113	121	132	133
アセットアロケーション型	41	43	48	60	65	85	125	176
<b>残高合計</b>	<b>17,681</b>	<b>18,032</b>	<b>20,161</b>	<b>23,068</b>	<b>23,976</b>	<b>25,367</b>	<b>27,552</b>	<b>27,418</b>
残高割合								
国内株式	22.7%	21.7%	22.8%	24.8%	26.2%	26.4%	26.2%	24.8%
海外株式	14.7%	15.8%	16.2%	16.6%	16.4%	16.7%	17.8%	18.0%
国内債券	18.2%	18.0%	16.6%	14.9%	14.2%	13.9%	13.2%	13.8%
海外債券	12.2%	12.0%	12.3%	11.5%	11.4%	11.1%	11.1%	11.4%
不動産	0.5%	0.6%	0.7%	1.0%	0.8%	0.8%	0.8%	0.8%
マルチアセット	31.8%	31.9%	31.5%	31.1%	31.0%	31.0%	30.8%	31.2%

出所)野村総合研究所

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

図表3 分類別パフォーマンス



出所)野村総合研究所

分類別パフォーマンスの推移

図表3は2013年度第4四半期中におけるファンド分類別累積投資収益率の推移です。この四半期は国内債券型、海外債券型を除く全ての収益率がマイナスとなりました。2014年1月に円高が進行したことを受け、国内株式型の収益率は四半期で7.2%のマイナスとなりました。海外株式型は米国経済指標が芳しくなかったことや、新興国財政不安が噂されたこともあり、2014年1月だけで5%のマイナスとなりましたが、新興国不安が一巡した2月、3月にはやや持ち直し、四半期では1.1%のマイナスとなりました。株式や債券に分散投資するマルチアセット型では、国内外の株式が不調だった1月に収益率が3%程度のマイナスとなりましたが、その後やや持ち直し四半期では2.2%のマイナスとなりました。

分類別資金純流入額の推移

図表4は、2012年度第4四半期から当四半期までのファンド分類別の純流入額(設定額-解約額)の推移を表したものです。

収益率が全般的に低かったにもかかわらず、DC専用ファンド全体の資金純流入は高い水準にありました。解約額は毎月月間300億円を超える水準であった一方、毎月500億円を超える設定

図表4 DC専用ファンドの分類別資金純流入額(億円)

	13/01~ 13/03	13/04~ 13/06	13/07~ 13/09	13/10~ 13/12	14/01~ 14/03
国内株式	151	-34	47	-103	84
海外株式	35	-97	7	14	87
国内債券	23	37	67	111	115
海外債券	13	-2	25	10	60
不動産	37	-16	14	4	7
マルチアセット	114	-40	131	119	243
資金純流入合計	373	-153	292	155	596

出所)野村総合研究所

野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されましたお客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

が見られました。結果として本四半期では純額では600億円近い流入となりました。同じく純額の流入となった、昨年同四半期と比較しても60%近く増加しています。

分類別にみても、全ての分類において純流入となりました。国内債券型、マルチアセット型等の比較的风险の低い分類においては昨年同四半期の純流入額に比してそれぞれ5倍、2.1倍とな

っています。また、海外の資産に投資する海外債型、海外株式型は同2.5倍、2.1倍となっています。一方、アベノミクスによる値上がりに対する期待が一巡したと思われる国内株式や不動産はそれぞれ同45%、81%の減少となりました。

低リスク商品や海外資産に人気が集まる一方、値上がり期待が薄まった商品への投資が抑えられている様子が見て取れます。

弊誌の記事はバックナンバーも含めてホームページでご覧頂けます。当ホームページは、年金スポンサー限定のサービスとなっております。ご利用を希望される方は、次のURLにてご登録をお願い致します。

<http://nenkin.nomura.co.jp>

**編集:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター、野村資本市場研究所、野村総合研究所

**発行:** 野村証券フィデューシャリー・サービス研究センター(年金マネジメント研究会事務局)

〒100-8130 東京都千代田区大手町2-2-2  
アーバンネット大手町ビル

**TEL:** 03 (6703) 3991

**FAX:** 03 (6703) 3981

**Email:** [nenkin@jp.nomura.com](mailto:nenkin@jp.nomura.com)

— 次号のお知らせ —

次号は

**5月12日(月)**

発行予定です。

#### 野村年金マネジメント研究会

このレポートは、年金基金運営及び企業財務業務の参考となる情報の提供を目的としたもので、これらに関する特定の戦略や手法をご提言するために作成したものではありません。年金基金運営及び企業財務業務はご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートは、野村証券及び野村グループ各社から直接提供するという方法でのみ配布致しております。提供されました御客様限りでご使用下さい。このレポートのいかなる部分も一切の権利は野村証券、野村資本市場研究所及び野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、またいかなる目的であれ、無断で複製し又は転送等を行わないようお願い致します。

## 野村証券からのお知らせ

当社で取り扱う商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等(国内株式取引の場合は約定代金に対して最大1.404%(税込み)(20万円以下の場合は、2,808円(税込み))の売買手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料(換金時手数料)および運用管理費用(信託報酬)等の諸経費、等)をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失が生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

野村証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第142号

加入協会／日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会